

ぼいす

北区飛鳥山博物館だより

2015.9.20

35

平成27年度

秋期企画展

都電残照 '67

—あるカメラマンが見届けた都電ラストラン—



昭和42年(1967)12月9日(土)14時45分 中央通り 銀座四丁目電停にラストランの飾りをつけ停車する1系統万世橋行5501号と1系統品川駅行5505号 西山英明氏撮影

◎主催 北区飛鳥山博物館

◎会期 平成27年10月24日(土)~12月13日(日)
午前10時から午後5時

◎会場 特別展示室

◎休館日 毎週月曜日 ※ただし11月23日(月・祝)は開館、翌日24日(火)は休館

観覧
無料

都電残照 '67

— あるカメラマンが見届けた 都電ラストラン —

「あの時君は若かった」という歌謡曲が流れた前の年のこと、昭和42年（1967）師走に都民の足として身近な交通手段であった都電が9系統分初めてまとまって廃止されました。その代表系統は金融商業の中心地中央通りを走行していた明治時代以来の路面電車である通称「都電銀座線」です。当時北区でこの出来事に注目していた若者がいました。フリーカメラマン西山英明氏（1942-）です。西山氏は年の初めから各地の都電を撮影し、12月9日（土）ラストランの日は銀座四丁目に終日滞在し撮影を続けました。当館では先年西山氏から当時の映像資料を提供いただきましたが、このたび資料整理を大方終えたことを機に、原板が新鮮なうちに一般の方々に企画展として公開することにしました次第です。

展示では、昭和42年（1967）という年を振り返りつつ、都電が行き交う街と人々、中央通り及び周辺を走行する都電、そしてラストラン当日に銀座四丁目付近を走行する都電の様子を写真資料から思う存分ご覧いただけます。

<企画展関連事業>

フロアレクチャー

日 時：11月1日（日）・11月29日（日）
いずれも午後3時から午後4時
会 場：当館特別展示室
内 容：担当学芸員が展示の肝所を丁寧に解説します。
定 員：30名
参加費：無料
申 込：当日先着順※詳細は当館までお問い合わせください。

映像企画「都電残照 '67」

日 時：12月13日（日）午後2時から午後4時
会 場：当館講堂
内 容：①昭和35年（1960）東京都映画協会製作
「都電22番線」（11分）
②昭和40年（1965）東京都映画協会製作
「都電物語」（13分）
③昭和42年（1967）東京都映画協会製作
「さよなら銀座線」（15分）
都立多摩図書館フィルムライブラリー所蔵の上記3本の記録映画を見るときともに担当学芸員が企画展に関わっていただいた専門家と対談します。
ゲスト：西山英明氏（元フリーカメラマン）
大庭幸雄氏（鉄道友の会事務局長）
定 員：80名
参加費：無料
申 込：往復葉書で当館まで12月2日（水）必着
※申込多数の場合は抽選

<申し込み及び問い合わせ先>

〒114-0002
東京都北区王子1-1-3 北区飛鳥山博物館
TEL 03-3916-1133 FAX 03-3916-5900

VOICE
VOICE
VOICE

子ども向けハンズオン展示の今

博物館に期待される機能のひとつ・教育普及へのアプローチとしてハンズオン展示はいまや欠かせないものとなっている。

ハンズオン展示とは、普段は触れることのできない資料に実際に触れたり、動かしたりすることで、対象物への理解を深めたり、興味・関心を育てたりすることを目的とした展示手法である。資料の恒久保存という視点とは相反するものであるが、五感に訴えかけるこの取り組みは、特に好奇心旺盛で、感受性が豊かな子ども世代に対して有用とされており、当館でも折にふれて展示計画に盛り込んできたものである。



この夏の展示「ドキどき縄文体験-密着！縄文人のくらし-」でも、メインターゲットを小学3～6年生に据えていることから、随所にハンズオンコーナーを設けた。またさらに今回は昨今の状況を鑑み、その展示構成もストーリー仕立てのものとした。観覧者自身がそのストーリーの主人公になったつもりとなって見学することで、実体験に引き寄せて、よりリアルに縄文人のくらしぶりが体感できるような効果をねらったからである。

このようなスタイルは、テーマパーク型の展示とも呼べるもので、本道からは外れたものだったかもしれない。しかし寄せられたアンケートには、子どもたちからのものが多く、一定の成果はあったものと考えられよう。子どもたちの心を揺り動かすようなワークショップとはなにか。移りゆく時流をよく見極め、当館ではこれからも模索を続けていきたい。（安武）



大地・水・人

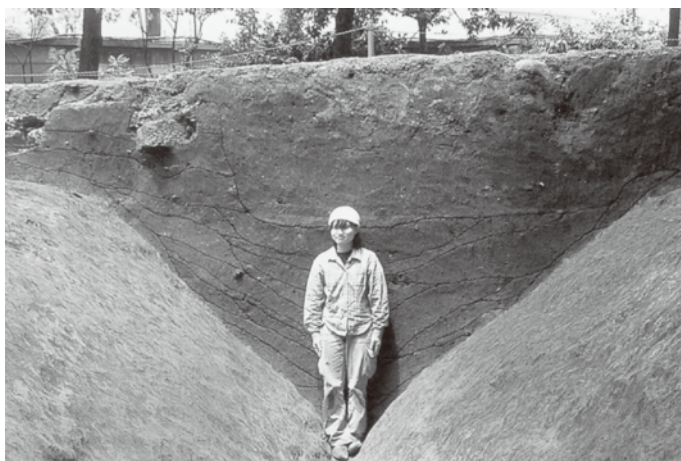
「戦争と平和

—弥生ムラからわかること—

「その国、もともと男子を以て王となし、住ること七、八十年。倭国乱れ、相攻伐すること歴年、乃ち共に一女子を立てて王となす。名づけて卑弥呼という。」これは『三国志 魏書 烏丸鮮卑東夷伝 倭人条』、俗にいう『魏志倭人伝』に書かれている有名な一文です。日本国の前身、倭国では長いこと国中のクニどうしが争い合い、卑弥呼を共に立てて王としたところ戦火は収まったというのです。これはいつごろの事かという、『梁書 列伝 諸夷伝 東夷条 倭』に「後漢の靈帝の光和年間」とあることから、178～184年、2世紀末の出来事であったことが推測できます。時代でいえば弥生時代の後期にあたります。弥生時代の地域間抗争は、なにもこの倭国大乱に始まったものではありません。それ以前、弥生時代のかなり早い段階からたびたび戦争はおきていたようです。

このことを証拠づけるのが北九州から近畿地方に及ぶ西日本の遺跡です。まず、当時の墓地を発掘すると、“戦士の墓”が検出されます。剣や矢で傷つけられた骨や頭部を切断された遺体があることから、相当な戦いがあったことがわかります。また、彼らの住むムラは周囲を溝や柵で取り囲んだ「環濠集落」というムラです。中には溝を何重にもめぐらしたり、斜めに打ち込んだ杭や逆茂木といったバリケードをめぐるムラもありました。まさに守りのムラといった様相です。さらに遺跡からは銅製や鉄製、石製の剣や矛、戈といった武器が出土します。このような守るムラや攻める武器、そして戦争の犠牲者と思われる遺骸から、西日本一帯では戦争といえる大規模な戦乱があったことがわかるのです。こうした戦争の痕跡は縄文時代にはみられません。つまり、戦いの思想は稲作という農耕文化と共に半島からもたらされたのです。

では、北区を含めた南関東ではどうでしょう。南関東での弥生文化の始まりは弥生時代中期の事で、北区では飛鳥山遺跡や亀山遺跡などで環濠集落が発見されています。農耕具を作るための大陸系磨製石器が出土していることから、水田は見つかっていませんが稲作を行っていた事は確かです。しかし、ムラや近接する墓からは、西日本にみられるような武器や犠牲者の遺骸は発見されていません。これは南関東全般に言えることです。南関東では戦争はおきていなかったといえるでしょう。これが後期になると武器である鉄剣が田端西台通遺跡や御殿前遺跡の方形周溝墓から合計3振り発見されています。後期といえば倭国が乱れていた頃。いよいよ南関東にも戦火が及んだのでしょうか。出土した鉄剣は全長が40cm～60cmを超えるもので、かなり大型のものです。実用品というよりは威信財として権威を表すことに使われたのではないかと考えられます。これをもって戦争の痕跡とはいえないようです。大きな争いのない世界。弥生時代の北区はそんな状況だったようです。



守りのムラ・環濠集落のV字溝（飛鳥山遺跡）

春期企画展

梨本宮妃絵はがきコレクション
—日仏絵はがきに描かれた近代の表象—
3月14日(土)～5月6日(水・休)

この春、当館では明治42年(1909)の梨本宮両殿下の欧州歴訪に際し、伊都子妃が蒐集した絵はがきコレクションに関する展覧会を開催しました。旅先で購入される絵はがきと言えば普通、名所旧跡を描くみやげ物を連想しますが、伊都子妃の絵はがきコレクションは社会現象に対する鋭い批評精神に富み、一世紀を経ても十分に歴史資料としての価値を有しています。

渡航途中で目にしたコロニアルな風景や、ベルエポックのパリのモード、同時代の東京の生活文化、さらにフランスから見た日露戦争絵はがきを列品しましたが、中でも質量ともに世界最大といえるフランス日露戦争絵はがきコレクションは、戦争への経緯、政治過程に即した事象が表象化され、諸外国間のパワー・ポリティクスの中で推移した戦争の性質についてシニカルな分析、大胆な解釈を加えています。

200年の歴史を有するフランスの風刺画は、政治、宗教権力に対し、エスプリの効いた手法で事象の一端を切り取ってきました。しかしその表現は一面、エスノセントリズムやオリエンタリズムの偏見を含むことも多く、展示では事実関係をキャプションで補いつつ、多角的に資料紹介をしました。それにしても当時日本では「不敬」とも見なされた歴史表象を含むこれら日露戦争絵はがきを、今に伝えた伊都子妃の慧眼と勇氣には驚かされました。(石倉)



重要文化財指定記念展

赤レンガと酒づくり —醸造試験所と北区の醸造業— 5月23日(土)～6月21日(日)

本展示は、昨年12月10日、滝野川2丁目に所在する「旧醸造試験所第一工場」が国の重要文化財(建造物)に指定されたことにちなみ開催しました。

醸造試験所は明治37年(1904)に設立された国立の醸造研究機関です。当時、国税の3,4割を酒税が占めていました。日本酒は国の財政と密接な関わりがあり、安定した日本酒の製造は、主要な税源の確保につながったのです。

展示では、建造物の解説だけでなく、醸造試験所が設立された意義や近代的な日本酒醸造への取り組み、北区滝野川に設立されることになった経緯などを伝える構成としました。第一工場の紹介では、工場の図面や写真と併せて、設計者の妻木頼黄が以前に手がけた3つのビール工場(アサヒ、エビス、カブト)との類似点を比較しました。日本酒の醸造方法に詳しくない方にも理解をしていただけるよう、酒造りの工程の図解だけでなく、酒造道具や酒瓶、酵母の培養試験管などを展示し、館のホワイエでは伝統的な酒造りの工程を動画で紹介しました。また、区内の醸造業については、明治11年(1878)から岩淵で操業している小山酒造や、酒飯店などについても紹介をし、付帯事業として、展示解説や小山酒造見学も行いました。

最終的に7,000名を超える方々に見学をいただき、皆様の日本酒に対する関心の高さを伺うことができました。(山口・田中)



会場ようす

「北区遺跡学講座 2015 春」を振り返って

当館恒例の考古系講座のひとつに遺跡探訪があります。これまでに10kmを超える行程を歩き倒したり、プチ登山をしたりしながら、見ごたえのある関東各地の遺跡をめぐってきました。しかし近年、「北区内の遺跡もめぐってみたい」との要望をいただくことが多くなってきたことを受け、今年度から新たに考古担当学芸員4名の連携による、北区内の遺跡をめぐる「北区遺跡学講座」を開講することとしたのです。

とはいっても都市化の進んだ北区では、多くの遺跡が地表面からは確認することができない状態にあります。よって先に博物館内で座学を行い、その遺跡に対するイメージを持ってもらった上で、現地を踏査してみることになりました。

第1回赤羽台遺跡では特別に許可をいただき、学校法人星美学園内を中心に見学しました。現在の地図



「環濠の幅はこれぐらいです」（飛鳥山遺跡）

に、発掘調査時の遺構分布図を重ねた即席地図を片手に、いまや校庭となっている弥生時代後期の環濠の上や、道路や校舎の一部となっている古墳時代後期の古墳群の上を歩いてみました。また第2回飛鳥山遺跡では、飛鳥山公園内をぐるっと一周しながら、縄文時代前期～古墳時代後期の遺構の上を歩きまわりました。

現在の町並みに埋もれた古代の遺跡を、地形環境なども含めて捉えなおす本講座は、参加者の想像力頼みのところもありますが、今後も順次開催予定です。みなさまのご応募をお待ちしています。（安武）

Event Report

Event Report

Event Report

Event Report

Event Report

講座「金輪寺と北区の文人」を振り返って

本講座は、江戸時代を通じて王子に存在した金輪寺をひとつの「定数」と見なし、17世紀と19世紀とで時代の異なる文人を「変数」として両者の関係性を捉えるという初の試みです。一言で江戸時代といっても知の在り方には変遷があり、そこに焦点を定めて連携講座による新たな知の伝達に取り組みました。

江戸時代の金輪寺は王子権現社および稻荷社の別当であり、庶民に開かれた名所の地をその権威をもって支えてきました。戸田茂睡は天和2～3年（1682～83）以前に金輪寺を訪れ、「茶之間」から見た雪の景色を『紫の一本（ひともと）』に記しました。桜の名所となる以前の王子・飛鳥山は「人家少く人希なり」という様で、隠逸の境地に文雅が漂います。一方、大田南畝は文化8年（1811）6月13日の虫干に訪れ、考証学に基づく客観的情報の記録を行いました。門人の文宝亭文宝とともに、出展された金輪寺宝物の目録を書き留め（『一話一言』に収録）、それを同じく文人の山崎美成にも伝達しています。各時代の文人たちによって金輪寺が記録され、その記録によって知の変遷をたどることができるのは、この地が江戸時代を通じて文化の創造・発信拠点として機能してきたからに他なりません。

ご参加いただいたお客様からは、金輪寺を通して時代による変化が分かった、シリーズ化してほしいなどのご意見を賜りました。ご期待に応えられるよう今後も精進してまいります。（石倉・増田）

学芸員の本棚



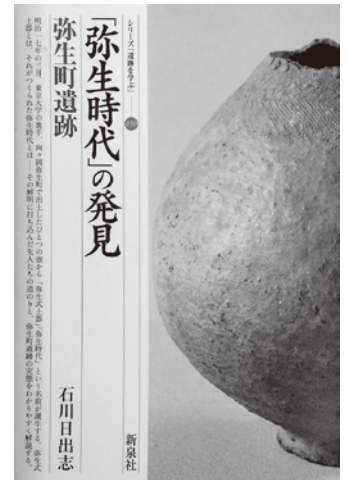
『「弥生時代」の発見—弥生町遺跡—』

(石川日出志著 シリーズ「遺跡を学ぶ」050 新泉社
平成20年(2008)8月刊行)

「弥生時代」と聞いて、どのような遺跡を思い浮かべますか。教科書に載っていた登呂遺跡でしょうか。新聞やテレビで大きく報じられた、吉野ヶ里遺跡でしょうか。とっさに東京都内の遺跡名を挙げる人は、おそらく極少数に限られることでしょう。しかし実は、私たちの足下にも、弥生時代の研究に大きな役割を果たした遺跡が広がっています。

私は以前、ぼいす27号で、明治時代に西ヶ原や田端が考古学研究の舞台となり、「弥生式土器」という名称の誕生に西ヶ原農事試験場の構内(現・御殿前遺跡)で発見された土器が関わっていたことや、田端村道灌山の遺跡(現・田端西台通遺跡)等を題材に「弥生式土器」の研究に取り組んだ蒔田鎗次郎の話を書きました。ここに紹介する『「弥生時代」の発見—弥生町遺跡—』は平成20年(2008)に刊行されたもので、まだその時点では農事試験場構内発見の土器の経緯が明らかになっていませんでしたので、それに関する記述はありませんが、明治17年(1884)の向ヶ丘弥生町(現・文京区)での「弥生式土器第1号」の発見にはじまり、その近隣である現在の北区を含む一帯の遺跡が、弥生時代研究の礎となったことを知ることのできる一冊となっています。

また、同著者による『農耕社会の成立』(シリーズ日本古代史① 岩波新書 平成22年(2010)10月刊行)には、西ヶ原農事試験場構内出土の土器と「弥生式土器」名称誕生の関わりについて記述されていますので、併せてご紹介させていただきます。(牛山)



心ふるえる展示体験

「山口小夜子 未来を着る人」

主催：東京都現代美術館
会期：4月11日(土)～6月28日(日)

今回の心ふるえる体験は山口小夜子(1949～2007)の展示会。70年代初頭、アジア人最初にパリコレ・モデルとしてモード界を席卷、日本人女性の表象を示す存在として世界中にその名を知られた山口小夜子だが、本展ではモデル・パフォーマンス・衣装・デザインなどの多彩な活動から彼女の日常を彩ったレコード、図書、人形など貴重な資料を展示、表現者・山口小夜子の知られざる一面を紹介する企画であった。

展示は「時代とともに トップモデルとしての小夜子」「美をかたちに 資生堂と小夜子」「新たな舞台へ 演じる、舞う、着せる小夜子」「オルタナティブな未来へ 21世紀の小夜子」から構成、モデルとしてデザイナーの意図を身体性の中で再構築する試みを実践した山口小夜子は、決して拡散するイメージの中で消費される存在ではないことが展示後半で次第に明らかになる。生前の山口とコラボレートを行った山川冬樹は、福島原発を舞台に山口が出演した昭和53年(1978)の予見的な映画・「原子力戦争」へのオマージュとして、小夜子ライフ・マスクを付け舞う。その作品「その人が見た未来は僕らの現在」は、未来を着る人という企画展コンセプトに合致するものであり、また『陰影礼賛』を朗読する山口の映像からは、「影向」の文字が浮びあがり交霊術さながらの息遣いを示した。「わたしは今、いろいろなジャンルのアーティストと「着る」意味をテーマに実験的なパフォーマンスのコラボレートを試みっていますが、いつかどこかで、そのようなところを持つ君たちと出会いたいと思っています。」という小夜子の現前性が確認された瞬間であった。(石倉)

『陰影礼賛』を朗読する山口小夜子

昭和30年代に栄町から堀船方面を撮影したもので、私達の生活になじみ深い工場が写っています。左奥に「キリンビール」と読める高い建物は、キリンビール王子工場です。東洋紡績の工場跡に昭和32年（1957）竣工。都内唯一の製造拠点として関東のビール好きの喉を潤してきましたが、平成10年（1998）に操業終了し、跡地は現在、読売新聞などの新聞印刷工場となっています。

中央の看板「コーセー化粧品」は、小林コーセー王子工場（昭和27年（1952）竣工）の建物で、現在のコーセー研究所です。化粧品メーカーとして有名なコーセーは昭和21年（1946）に王子で創業、本社も昭和40年（1965）に日本橋へ移転するまで堀船にありました。

コーセー王子工場の後ろには、横に長く伸びた建物が写り、丸みを帯びた屋根にはドーマー窓がずらりと並んでいるのがわかります。これは東京書籍株式会社の工場です。明治42年（1909）に設立された東京書籍は、教科書出版の最大手。写真に写っている横長の建物は昭和11年（1936）に竣工した工場で、昭和初期に国内で開発されたダイヤモンドトラス工法が採用され、内部は無柱の空間となっています。

このほか、コーセー王子工場の左に東京サイレン王子工場、画面左下に第一木箱株式会社の工場の屋根も写っています。洗濯物の干された住宅と大小の工場が混在した、この町の感触を伝えてくれる一枚です。（田中）



栄町から堀船方面 倉田正義氏提供

博物館

インフォメーション

北区ふるさと農家体験館が10周年

かつて浮間地区にあった古民家「旧松澤家住宅」が北区の有形文化財に指定され、その保存のために北区赤羽自然観察公園に移築復原されたのが平成17年4月のことです。文化財建造物を活用しながら保存していく体験学習施設「北区ふるさと農家体験館」としてオープンし、今年の4月で10年を迎えました。平成19年には北区ふるさと農家体験館運営協議会が発足し、区民を中心としたメンバーが年中行事などのさまざまな昔の生活文化の体験事業を行ってきました。平成23年3月11日におきました東日本大震災においては、壁のひび割れなどの損壊はありましたが、倒壊に至るまでの大きなダメージはありませんでした。ほっとすると共に、古民家の建築技術が大きな揺れを吸収することを改めて実感するものでした。

このような北区ふるさと農家体験館の開館10周年を記念して、移築復原までの過程と北区ふるさと農家体験館の10年の歩みを、パネルを中心として展示いたします。会場と期間は以下の通りです。みなさまのご来館をお待ちしております。

北区ふるさと農家体験館 開館10周年記念パネル展

「受け継がれる古民家 ー移築復原された旧松澤家住宅ー」

場所と期日：①ふるさと農家体験館：10月24日（土）～11月15日（日）

☆11月1日（日）は北区ふるさと農家体験館祭りを開催します。

②北区飛鳥山博物館：12月18日（金）～1月11日（月・祝）

はく
ぶつかん



9月～12月

- 特別展覧会「第14回 人間国宝奥山峰石と北区の工芸作家展」
..... (9/12～10/12)
- ・付帯事業「陶芸を楽しみ学ぶ講座」「金工に親しみ学ぶ講座」「人間国宝に学ぶ！鍛金体験講座」「作家が語る！作品解説」
- 飛鳥山3つの博物館合同企画 Go！ゴー！ミュージアム2015
「勾玉ストラップをつくろう！」..... (10/3・4)
- 秋期企画展「都電残照'67ーあるカメラマンが見届けた都電ラストラナー」
..... (10/24～12/13)
- ・付帯事業「フロアレクチャー」..... (11/1・29)
- 映像企画「都電残照'67」..... (12/13)
- 講座「大江戸グルメ事情 王子の料理屋と浮世絵」..... (10/10)
- 体験講座「作ってわかるー江戸の料理屋」..... (10/11・25)
- サロン講座北区モノ語り⑥⑦⑧..... (10/17,11/21,12/19)
- 野外講座「北区文化財めぐり(王子・西ヶ原編)」..... (10/18)
- 北区・世田谷区 古民家見較べ聴き較べ..... (10/12・18)
- 文化財講演会「旧醸造試験所と設計者妻木頼黄」..... (11/14)
- 野外講座「北区遺跡学講座2015 秋③御殿前遺跡④豊島馬場遺跡」
..... (11/7,12/12)
- 講座「浮世絵に見る色と意匠」..... (11/8)
- 講座「あすかやまのどんぐりで「でんでんだいこ」づくり」..... (11/15)
- 文化財公開事業「稲付の餅搗き唄」の実演と体験..... (11/28)
- 考古学講座(中級編)考古学を学ぶー埴輪の話ー..... (12/5)
- 講座「江戸名所図会をながめる、読み込む」..... (12/6・20)
- 北区ふるさと農家体験館開館10周年記念パネル展..... (12/18～1/11)
- 講座「第27回新聞から読む考古学ー2015 年下半期を振り返るー」
..... (12/27)
- ミニ展示「あすかやま十二支ー申ー」..... (12/12～1/31)



1月～3月

- 小学校対応事業「来て、見て、さわって！昔の道具」..... (1/9～2/28)
 - 考古学講座(基礎編)考古学を知る..... (1/17・24・31)
 - サロン講座北区モノ語り⑨⑩..... (1/16,2/13)
 - 野外講座「飛鳥山歴史探検隊」..... (2/14)
 - 飛鳥山3つの博物館合同企画「飛鳥山1日大学」..... (2/20)
 - 講座「伝統野菜関係のセミナー」..... (3/6)
 - 野外講座「ご近所歴史探検隊シリーズ」..... (3/12)
 - 考古学講座 遺跡に行こう！..... (3/19・20)
 - 春期企画展「糸と光と風景とー刺繍を通してみる近代ー」..... (3/15～5/8)
 - ・付帯事業「展示解説」..... (3/26)
- ※催し物は仮称のものを含まます。()内の実施日は予定です。詳細は、当館発行の催し物案内、北区ニュース、ホームページをご覧ください。

面
白うて
やがて悲しき
展示かな

学芸リレーエッセイ

博物館

いらは歌留多

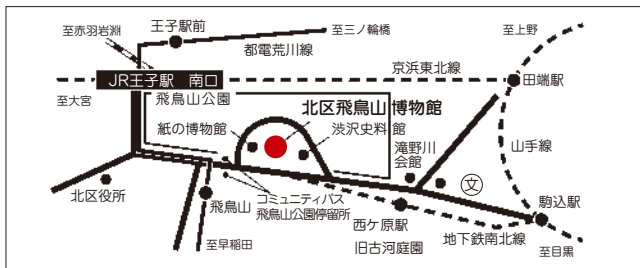
この句の元ネタは、もちろん芭蕉の「おもしろうてやがて悲しき鶺鴒かな」です。鶺鴒の時にかがり火を焚いた鶺鴒が通る様はとても素晴らしくワクワクするが、通り過ぎて川面が暗くなると、何ともいえない寂しい気持ちになることを句にしたものです。この感じ、博物館の企画展に通じるところがあります。企画展は、時間をかけて構想を練り、多くの関係者と交渉・相談をしながら展示を組み立てます。単に資料を並べて、解説を付けるだけではなく、どのようにしたら来館者の皆さんに伝えたいことが伝わるか、見せ方の工夫なども学芸員の手腕が問われます。作業は多岐にわたり、苦勞も多々ありますが、会期の初日を迎え、お客様が展示をご覧になっている姿を見ると、何ともいえない達成感につまれます。やがて最終日が来て、展示を撤収する作業が始めますが、この瞬間、「ほんとうに展示が終わるんだ」という、ほっとした様な、さびしい様な気分になります。でも、いつまでも感傷に浸ってはいられません。為すべき仕事は山のように。そこで、最後に一句「起きあがる菊ほのかなり水のあと」(芭蕉)さあ、やるぞー。(山口)

利用のご案内

- 【開館時間】 午前10時から午後5時
※観覧券の発行は午後4時30分まで
- 【休館日】 毎週月曜(月曜日が国民の祝日・休日にあたる場合は開館し、直後の平日に振替休館)年末年始(12月28日～1月4日)このほかに臨時休館日があります。
- 【常設展観覧料】

	個人	団体	三館共通券
一般	300円	240円	720円
高齢者(65歳以上)	150円		
小・中・高	100円	80円	240円

・小学生未満は無料
・団体扱いは20名以上
・三館共通券は当館のほか、渋沢史料館、紙の博物館をご覧ください。



交通のご案内 [JR京浜東北線] 王子駅南口より徒歩5分
[地下鉄南北線] 西ヶ原駅より徒歩7分
[都電荒川線] 飛鳥山停留所より徒歩4分
[都バス 草64、王40系統] 飛鳥山公園停留所より徒歩5分
[北区コミュニティバス] 飛鳥山公園停留所より徒歩1分

編集後記

今年は長期予報では冷夏の筈でしたが、ふたをあけたら猛暑の毎日が続きました。なかなか予報とは難しいものです。しかし本号が皆様のお目に触れるころには、少しはしのぎやすい季節となっているかと思えます。これからの季節、博物館ではさまざまな催しが目白押しです。さわやかな飛鳥山公園に、そして当館にどうぞお運びになってください。(石倉)

北区飛鳥山博物館だより ぼいす35

【発行日】 平成27年9月20日
【編集・発行】 北区飛鳥山博物館
〒114-0002 東京都北区王子1-1-3
TEL. 03-3916-1133
【印刷】 文明堂印刷株式会社